



特定非営利活動法人 APLA 2011 年度事業報告

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-15 サンライズ新宿 3F

《tel》03-5273-8160 《fax》03-5273-8667

《E-mail》info@apla.jp 《URL》http://www.apla.jp

《表紙写真》カネシゲファーム・ルーラルキャンパス（フィリピン・ネグロス島）

# 海外プロジェクト支援事業

## フィリピン・ネグロス島

### カネシゲファーム・ルーラルキャンパス (KF-RC)、農場の設備がほぼ整いました

2011年度は、カネシゲファーム・ルーラルキャンパス(KF-RC)の農場の設備、体制を充実させた1年となりました。2009～10年は、第2期生まで研修生が実践農場に参画してきましたが、2011年は新たに研修生は受け入れず、農場基盤の整備、将来的に農場の運営を担う人材育成と体制構築を強化していきました。

- 農場施設の拡充としては、家畜の飲水改善を施し、生物活性水(BMW技術)が製造されているプラントから豚舎や鶏舎へ直接水が流れるように配管設備を導入しました。これにより、豚や鶏がいつでも飲みたいときに水が飲めるようになり、良好な生育条件を整えることができました。
- 農場の軸の養豚においては、2011年度は母豚21頭体制となり、子豚・肥育豚・加工肉用で合計462頭を販売することができました。また、魚の養殖の実施も本格化させ、生物活性水を利用した水でティラピアの養殖を開始しました。農場の財政面では、徐々に売上は上がってきているものの、豚の飼料代が高くつくことが課題で、原料の自給などが今後の検討事項となります。
- 農場には、海外・国内からたくさんの方が訪れ、研修生やスタッフと交流しました。日本からの訪問客をはじめ、ヨーロッパや中国からも来客があり、地元の高校生のサイエンスキャンプも開催されました。現地のNGOとの連携も図り、お互いの活動を紹介し合うこともありました。ルーラルキャンパスとしては、食肉加工のセミナーも開催し、今後販売していく計画です。
- 2011年9月には、KF-RCは財団として登記、フィリピン国内における法人格を取得し、理事会を設置しました。アルフレッド・ボディオスさんが理事長に就任し、他4人の理事体制が整いました。スタッフは、カルロス・バルコマさんを農場長にし、第1期、第2期の研修生5人がスタッフとして働くことになりました。これまで農場管理や販売管理を担ってきた2人も引き続きスタッフとして関わります。
- 2012年3月には、新たな研修生を受け入れる体制が整い、第3期生の面接を実施。新たに2人の研修生が参加することになりました。この間に見えてきた課題として、既に卒業した研修生たちが地元で農業を始めるとき、一人で継続していくことの難しさが出てきているため、将来その卒業生たちと一緒に取り組める人を中心に、また本人のやる気と意思を確認したうえでの新研修生の採用となりました。2012年は、APLAからKF-RCの農場への財政支援が最後になる予定ですが、養豚を中心としつつ、直売所の運営なども開始し、経営面でも強化を図っていくこととなります。



飲水改善で、ニップル設置。豚たちはいつでも好きなときに水が飲めて幸せそう



KF-RCのスタッフ、研修生、卒業生たち

## 北部ルソン

新たな取り組みを展開させていこうとしていた 2011 年度でしたが、パートナーである CORDEV(農村発展のための協同組合)内での組織・人事変更など、いくつかの要因により、大きな前進はできませんでしたが、次につなげるための道筋をつけた 1 年となりました。

- 2010 年度に地域間交流として東ティモールの農民を受け入れてくれたヌエバ・ビスカヤ州のカヤパ地域。もともと山間で農業を営む先住民族の人たちが慣行農業から有機農業への取り組みを進めている地域です。今後はコーヒーの生産を作物多様化のひとつとして試みることになり、苗木の植付けを始めていましたが、まだ開始したばかりで、コーヒーの収穫が少なかったことに加え、苗が台風の影響で倒れてしまったため、APLA との関連では大きな進展とは至りませんでした。今後とも様子を見ながら連携していくことを模索したいと考えています。
- 2009 年に設置した生物活性水(BMW 技術)のプラントで、有機堆肥を製造していた CORDEV ですが、販売をするための行政への堆肥登録が進まず、販売は小規模にとどまりました。また、CORDEV の財政の柱であるバラゴンバナナの出荷事業が台風の影響のため約半年ほど停止し、財政難に陥りました。そのため、APLA では CORDEV の要請を受け、台風被害へのサポートの意味も含め財政支援を行いました。一方で、こうした状況下でも、生物活性水の利用に関しては、組合員の間で実験的な使用が継続され、興味を持つ農民が増えてきています。また、地域行政も、近年有機農業推進に力を入れてきており、CORDEV との協働のあり方を模索しています。こうしたことから、今後は、有機堆肥の登録をいち早く進め、堆肥の販売を広めることとあわせて、BMW 技術の普及を強化していくことが確認されました。2012 年度には農民代表の 2 人の農場で本格的な BMW 技術の導入を図り、実地経験を積んでいくことが検討されています。
- 互恵のためのアジア民衆基金(APF)で融資を受けていた“しいたけプロジェクト”が失敗してしまいました。しいたけを生産するための技術不足や立地選択の判断ミス、スタッフによる運営管理の問題により失敗したという報告がありました。CORDEV は現在、その失敗の問題整理と今後の方針作成を進めていますが、APLA ではそのサポートを行っています。



2011年6月にカヤパを訪問。女性メンバーを中心に小規模ではあるが有機農業を進めている



生物活性水を大豆の栽培に実験的に使用してみた生産者。収穫量が上がったとの話があった

## 東ティモール

- 2011 年、東ティモールでは、裏作年ということに加え、前年の乾季に長雨が続くという異常気象により、花の大半が落ちてしまったことが原因でコーヒーが大不作となりました。それにより、コーヒー生産者の唯一のまとまった現金収入が大幅に減少し、コーヒー収穫期終了直後から生活の厳しさを訴える声が相次いだため、11 月には野川が現地に入り、生産者への聞き取りを行いました。その結果を踏まえて様々な検討を重ねた結果、エルメラ県の ATT のコーヒー生産者グループ(12 組)

ループ・約 200 世帯) に対して、米の緊急支援を実施しました。APLA としては、JCNC の経験からも、生産者たちの自立のためにはこういった「モノの支援」がいつまでも継続されるのは好ましくないと考えるため、米の支援は基本的に今回限りのことで、今後は自分たちで自助できるように生産者グループの組織化や貯蓄プログラムを行っていくという目標を共有しました。

- 2010 年度に実施したフィリピンの農民との交流の成果は、協働する Fitun Caetano(フィットゥン・カイトノ)と GATAMIR(ガタミル)の両グループにとって、収入の多様化と自給作物の栽培を進めるモチベーションとなり、2011 年度には具体的な動きにつながりました。野菜の栽培に関しては、地元 NGO の Permatil の協力のもと、土づくりのワークショップを実施し、そこで学んだことをそれぞれのメンバーが実践しはじめています。また、Fitun Caetano では、自分たちが主体的に造成した池を活用して魚を養殖するために、APLA のコーディネートで養殖に関するトレーニングを実施しました。600 匹以上の稚魚を順調に育てており、7 月には初めての収穫を迎える予定です。



養殖にチャレンジする Fitun Caetano



緊急支援のお米を配布する様子

## 互恵のためのアジア民衆基金

### 互恵のためのアジア民衆基金 (APF) 総会ならびにパプアツアー参加

11 月 19 日、APF の第 2 期社員総会がインドネシアのスラバヤで開かれ、共同代表の秋山が参加した(オブザーバーとして事務局の野川も参加)。総会前には、各国からの参加者の交流の場が設けられたほか、今回ホストをつとめたオルター・トレード・インドネシア社(ATINA)のエコシュリンプの養殖池の視察訪問ならびにマングローブの記念植樹などが実施された。

総会終了後、希望者を対象にしたツアーでは、総勢 30 人近いメンバーがインドネシアのパプア州を訪問し、APF のメンバーでもある YPMD(パプア農村発展財団)が協働を開始したカカオ産地を訪問し、現地の状況を垣間みることができました。外国人の入域が制限されているパプア州へのこうした訪問が実現するには、事前の手続きから訪問最中にいたるまで様々な労力が必要とされましたが、産地での農民との交流や地元政府高官との会合などを通じ、「パプアの人びとによるパプアの人びとのためのカカオ生産」の今後の可能性を実感する訪問となりました。



パプア訪問ツアーの様子

# 広報出版事業

## ホームページ・リニューアル

活動の枠を広げるために、APLA の活動内容を分かりやすく伝えることを念頭にホームページのリニューアルを図りました。ソーシャル・ネットワーク・サービス(Facebook など)も活用し、参加型のホームページに生まれかわっています。



新しいHP

人と人がつながれば、世界は変わる。

## 機関誌ハリーナ Vol.2 (12号～15号発行)

2011年5月 **12号**

**【特集拡大版】 3.11 後—この世界をどうつくりなおすか APLA が考えること**

- \*【座談会】◎秋山真兄、市橋秀夫、廣瀬康代、堀芳枝、村井吉敬、吉澤真満子、大野和興
- \*山形より—光ある未来を自分たちの手で◎疋田美津子
- \*フィリピンより—タルタルの丘から◎大橋成子
- \*東日本大震災、そして原発事故について思うこと—カネシゲファーム・ルーラルキャンパスにて



2011年8月 **13号**

**【特集】 女たちの3月11日—生き抜くためのたたかい**

- \*滝桜のように強く生きる—47キロ内で種をまく農婦◎西沢江美子、会沢テル
- \*自分の居場所に居座って分かち合うしかない◎川崎 恵
- \*私たちのように再び立ち上がって—スマトラ沖地震・津波被災者から◎佐伯奈津子



2011年11月 **14号**

**【特集】 心が動き、思いが繋がった—ネグロスと日本、民衆連帯の25年**

- \*日本とネグロスの民衆連帯、25年が経ちました。◎秋山真兄
- \*25年が生み出してきたこと、時代をつなげていくこと。◎吉澤真満子
- \*日本ネグロス連帯25周年記念プログラム 参加者たちのメッセージ



2012年3月 **15号**

**【特集】 放射能下で生きる—つくる人と食べる人、それぞれの思い**

- \*座談会◎上野 香、山木暖子、秋間香枝子 (聞き手: 西沢江美子)
- \*大消費地・東京を選んだのだから 子どもと共に決めた食べもの◎沢 理恵
- \*納得したものをつくり、食べるために◎市橋秀夫



ブックレットシリーズ第4弾 『Selamat Pagi インドネシア・東ジャワ～エコシュリンプの暮らしぶり～』

■国内活動  
□海外活動



エコシュリンプを知るための入門書ができあがりました。エコシュリンプはどんなところで育ち、どんな人がやっているのかという基本情報はもちろん、インドネシア通の APLA 共同代表・村井吉敬さんのコラムなども収録。授業、勉強会、学習会の機会にも教材として活用できます。

【2011年10月発行 / 20頁】

APLA Report no.5



【no.5 東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故を受けて】

【2011年10月発行 / 20頁】

福島で農業を続けるということ◎大内信一さん（福島県二本松市／二本松有機農業研究会）  
 原発事故を受けて思うこと◎清水 澄さん（茨城県東茨城郡茨城町）  
 アジア・アフリカの仲間とともに、原発事故とどう向かい合うか◎アジア学院（栃木県那須塩原市）  
 自然の循環のなかで◎村上倫久さん（静岡県静岡市清水区／村上園）  
 「安心・安全」が根底から崩された今こそ、真のオルタナティブを◎三里塚ワンバック野菜（千葉県成田市）

手わたしバナナくらぶニュース 206～211号

特集ラインナップ.....

- 206 東ティモールのコーヒー生産者がフィリピンの農民と交流（2011年5月発行）
- 207 カネシゲファーム・ルーラルキャンパスで、若者たちが出会った（2011年7月発行）
- 208 日本ネグロス連帯 25周年～過去を振り返り、現在を祝福し、未来のチャレンジに向かって～（2011年9月発行）
- 209 身近な視点から見るパレスチナ～オリーブオイルを通じて～（2011年11月発行）
- 210 グローバルな目線で考えよう、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）（2012年1月発行）
- 211 福島の子もたちに届けようバナナ募金～ Bananas for FUKUSHIMA Kids ～（2012年3月発行）



交流事業

日本ネグロス連帯 25周年ハロハロツアー開催

日本ネグロス・キャンペーン委員会(JCNC)の活動が開始され、ネグロスとの連帯が始まってから25年が経ちました。その歴史を振り返り、次につなげようと、これまで活動してきた先輩たち、これから活動を担う若者など約100人がネグロスと日本から集まり、セレモニーが開催されました。これと合わせて、日本からの参加者は、マスコバド糖、バランゴンバナナの産地、KF-RCなども訪れ、これまでの歩みと現在を確認しました。



日本ネグロス連帯25年・セレモニー参加者で集合写真

---

## ツアー受け入れ

---

- 2011 年 9 月 12～18 日 東京経済大学・渡辺ゼミのネグロス・スタディツアー
- 2012 年 2 月 9～16 日 恵泉女学園大学・フィールドスタディツアー(ネグロス)

---

## つながる広げるお話し会

---

3.11. 東日本大震災後に直面している困難な状況について、色々な方たちと共に考えたい、実践の糸口を見つけたい、との思いで、2011 年 10 月から 2012 年 2 月にかけて 3 回にわたり実施しました。

- 第 1 回目(10 月 15 日)には、安田節子さん(食政策センタービジョン 21)をお招きし、「何をどう食べればいいの?～放射能汚染と遺伝子組み換え作物～」というテーマで 3.11 後の食についてお話を聴き、20 人以上の参加者との意見・情報交換も行いました。お話のあとには、放射性物質の取り込みを減らすために安田さんが勧めている「マゴワヤサシイ」ランチを会場となった from Earth Cafe "OHANA" に準備していただき、参加者全員で味わいました。
- 第 2 回目(1 月 21 日)には、「いまこそ Act Locally, Think globally ～トランジションタウンとフェアトレードの取り組みから～」を開催。この日は、参加者 10 人ほどで東京・足立区にあるエコアパートを訪問し、省エネと地域のつながりづくりを実践している現代風町屋から様々なヒントをもらえました。その後は、エコアパートの住人でもある押野美穂さん(NOAH'S CAFE)を囲んで、経済を最優先に考え営まれてきた今の社会に変わるオルタナティブとして、フェアトレードやトランジションタウンというテーマについて話しました。
- 第 3 回目(2 月 5 日)には、「有機お茶農家さんと一緒に考える、ポスト 3.11 の農と食」と題し、静岡県の上野原市(村上園)をお招きし、自然循環型のお茶づくりについて学ぶと同時に、原発震災後の深刻な状況についてもお話を伺いました。

どのテーマも簡単に答えが見つかるものではありませんが、今回のお話し会をきっかけにできた新たなつながりを生かしながら、今後も継続してこれらの課題と向き合っていきたいと思います。



第 2 回、参加者たちでエコアパートを訪問

## 調査研究

---

### インドネシア・パプア州 カカオ産地調査訪問

---

2011 年 9 月 5 日～16 日まで、2012 年より ATJ が民衆取引を開始する予定のカカオ生産地を訪問しました。現地 NGO の YPMD やカカオ生産者を訪問したほか、東ジャワ州ジュンブル県にあるチョコレート加工を担うコーヒーカカオ研究所も取材しました。この報告をビデオ (DVD) とブックレットにまとめます。当初 2011 年度内の完成予定でしたが、作業が遅れ 2012 年度の完成予定となっています。

# 2011 年度活動一覧

● 出店 / 参加イベント  
○ 出版 / 販売関連  
■ 国内活動  
□ 海外活動

## 4月

- マスコ・ロック販売中止
- ハイテストレート取り扱い中止
- 5 ● “ニッポン農力向上&震災復興大作戦！”緊急フォーラム
- 12-13 ● アユス仏教国際協力ネットワークの春合宿
- 23 ■ 福島県三春町 “滝桜花見まつり”
- 23-24 ● アースデイ東京 2011

## 5月

- 手わたしバナナくらぶニュース 206 号
- ハリーナ vol.2-no.12
- 14 ● 世界フェアトレード・デー 2011
- 15 ● 築地本願寺安穂朝市
- 21 ■ 第四回 APLA 総会開催
- 23-24 ■ 山梨県・白州郷牧場訪問
- 28 ■ WE21 さがみはらにて講演

## 6月

- 3 ■ 和光大学にて授業
- 8 ■ 恵泉女学園大学にて授業
- 8-16 □ 北部ルソン現地調査
- 13-18 □ BMW 技術協会・匠集団そらが、フィリピンの BMW プラント  
チェックのため北部ルソンとネグロスを訪問
- 14 ■ 大正大学にて授業
- 16 ■ アユス仏教国際協力ネットワークの総会にて講演
- 17 ■ 成蹊大学にて授業
- 19 ● 築地本願寺安穂朝市
- 24 ● JCNC 北海道の定例会
- 29 ■ “スライドトーク・イベント・フォトジャーナリスト山本宗補氏  
が語る 3.11 ~福島第一原発事故の取材報告~” 共催

## 7月

- 手わたしバナナくらぶニュース 207 号
- エコシュリンプ期間限定お中元ギフト
- 10 ■ 千葉県成田・三里塚ワンパック訪問
- 11-16 □ 日本ネグロス連帯 25 周年ハロハロツアー開催
- 18 ● 築地本願寺安穂朝市
- 26 ■ 二本松有機農業研究会訪問

## 8月

- ハリーナ vol.2-no.13
- 2 ■ 静岡県清水・村上農園訪問
- 3 ■ 茨城県東茨城郡・茨城 BM 訪問
- 10 ■ 栃木県アジア学院訪問
- 26-27 ■ BM 技術協会主催「BM 基礎セミナー第 3 回」
- 31 ■ 埼玉県さいたま市男女参画センター主催の講座で講演

## 9月

- 手わたしバナナくらぶニュース 208 号
- 5-16 □ インドネシア◆カカオ・ブックレットおよびビデオ製作のため  
の現地取材
- 6 ■ 東京経済大学・渡辺ゼミのネグロススタディツアー事前学習会
- 7 ● ちよだ青空市
- 10-11 ● しらたかのの会 5 周年企画イベント
- 12-18 □ 東京経済大学・渡辺ゼミのネグロススタディツアーアテンド
- 17-30 □ 東ティモール◆現地調査とパートナー地域訪問

## 10月

- ブックレット『Selamat Pagi インドネシア東ジャワ〜エコシュリンプ  
のふるさと〜』
- APLA report no.5
- リタトレーディングの紅茶取り扱い開始
- コーヒーブレイクセット廃止

## 1-2 ● グローバルフェスタ

- 3 ■ グリーンコープ共同体主催の学習会にて講演
- 15 ■ APLA presents つながる広げるお話し会・第 1 回
- 16 ● 土と平和の祭典
- 19-20 ■ 福島県二本松市の二本松有機農業研究会訪問
- 29 ■ 三春収穫祭
- 29 ● パルシステム埼玉県内統合記念イベント「smile リボンバザール」
- 29 ● 第 7 回フォーラムアソシエ文化祭

## 11月

- 手わたしバナナくらぶニュース 209 号
- ハリーナ vol.2-no.14
- 1-30 ■ グリーンコープ共同体“fromネグロスセミナー”が行われ、  
各地を訪問
- 1- 「福島の子どもたちに届けよう・バナナ募金」開始
- 18-23 □ インドネシア・パプア州◆互恵のためのアジア民衆基金第  
二回総会と交流ツアー参加
- 27 ● 「これからのフェアトレードー震災を越えてー」
- 28-29 BMW 技術協会全国交流会

## 12月

- 3 ■ 二本松有機農業研究会訪問
- 17 ■ 「バナナ募金」お届け先の福島県伊達市・仙林寺の寺子屋訪問
- 17 ● 全国有機農業推進協議会・関東集會
- 19 ■ 三春収穫祭の反省会
- 28 ■ 福島県有機農業ネットワーク、日本国際ボランティアセンター  
(JVC)、アジア太平洋資料センター (PARC) との打ち合わせ

## 1月

- 手わたしバナナくらぶニュース 210 号
- 10 ■ 二本松有機農業研究会訪問、打ち合わせ
- 12 ■ 青山学院大学・フレッシュャーズセミナーの授業講義
- 19-26 □ フィリピン・北部ルソン、ネグロスへ現地調査
- 21 ■ APLA presents つながる広げるお話し会・第 2 回
- 22-28 □ 「脱原発への道」ドイツツアー（呼びかけ：みどりの未来、  
企画：(株)マイチケット社）
- 24 □ 第 1 回カネシゲファーム・ルーラルキャンパス財団理事会
- 28 ■ エネルギー勉強会連続セミナー 「原発とわたしたち」 第 1 回

## 2月

- パーজনオリーブオイルの販売中止に伴い、エキストラバージンオ  
リーブオイルの販売再開
- 1 ■ 学芸大学付属高校社会科学実習にて、APLA の活動説明
- 5 ■ APLA presents つながる広げるお話し会・第 3 回
- 6 ● パルシステム埼玉・平和募金贈呈式
- 9-15 恵泉女学園大学・フィールドスタディツアー（ネグロス島）
- 11 ■ エネルギー勉強会連続セミナー 「原発とわたしたち」 第 2 回
- 13 ● フォーラム・アソシエ「アソシエーション・フォーラム 2011  
～会員の集い～」
- 17-18 ■ 第 4 回「BMW 技術基礎セミナー」
- 26 ■ 二本松有機農業研究会訪問

## 3月

- 手わたしバナナくらぶニュース 211 号
- ハリーナ vol.2-no.15
- にんじんジュース販売開始
- 8 ● 「福島農家の“今”に触れる～福島視察・全国集會事前勉強会」共催
- 9 ● 在日東ティモール大使館主催レセプション
- 10-11 ● アースガーデン “灯”
- 13 ■ 緊急市民国際シンポ「やっぱり TPP では生きられない！」に  
TPP に反対する人びとの運動で参加
- 17 ■ [料理教室] フィリピンお菓子作りから見えるつながりを開催
- 24 ■ 福島県有機農業ネットワークふくしま集會実行委員会主催「福  
島視察・全国集會」

# フェアトレード事業報告

## APLA ネットショップ

4月●ハイチストレート取り扱い終了。マスコバド糖使用のマスコ・ロック販売終了。  
 7月●ゲランドの塩細粒塩(500g)の包材が、スタンディングパウチに変更。  
 10月●コーヒブレイクセットの取り扱い終了。リタトレーディングの有機紅茶の販売開始。  
 1月●パレスチナ産オリーブオイルの取り扱い終了に伴い、エキストラバージンオリーブオイルの販売再開。  
 3月●有機人参使用まるごとジュースの販売開始。カフェ・ライ・ティモールの取り扱い終了(4月からは、アジアのコーヒー・東ティモールが販売開始)。

2011 年度 (2011 年 4 月～2012 年 3 月)	
ネットショップ	6,607,655 円
イベント	524,300 円
事務所販売	788,870 円
手わたしバナナくらぶ	2,356,900 円
エコシュリンプギフト	378,600 円

### 各種コーヒー

以前は人気商品だったペルーストレートの売れ行きがあまりよくなく、キリマンジャロストレート、東ティモールコーヒーの売れ行きが上がり、これらの商品を好んで買ってくださいお客様が多いことがわかりました。他の商品のファンを増やすためにも、facebook や Twitter やお便りを通して商品のお知らせをしていきたいと思いません。よりどりコーヒーセットの注文数も増えました。

### マスコバド糖関連商品

売れ行きは変わらず好調です。2011 年度は、マスコバド糖の箱注文が減ったものの、単品で頼んでくださるお客様が多かったです。お客さまが定着していて、全箱商品の中でも、マスコバド糖の売れ行きが一番よかったです。

### ゲランドの塩関連商品

使いやすい細粒塩シリーズの売れ行きが良好です。500g の注文数が増え、特に容器入りの注文が多いので、3本セットの再開を検討します。

### オリーブオイル

オリーブオイルせっけんが好評でした。特に、3個セットの売れ行きが良かったです。

### balanゴンバナナ

ネットショップでの売上は、年間を通じてそこまで多くありませんでしたが、定期的に注文して下さっていた方がバナナくらぶ会員になり、2月よりバナナを頻繁にご注文される方もいます。しかしながらお客様の幅がまだ広がらないので、2012年度は、ネットショップ、facebookなどを上手に利用し、バナナの売上がもう少しあがるように宣伝をしていきたいと思いません。

### その他

にんじんジュースが好評です。3月に行われたアースデイ“灯”では、イベント期間2日のうち1日が悪天候ながらも200本が完売しました。これから、ご注文して下さったお客さまが定着して購入して下さるようにしたいです。

### エコシュリンプ

10年度に比べて注文数が増えました。

## 手わたしバナナくらぶ

2011 年度の新規入会者数は7人。2010 年度より注文数は減少しましたが、定期的に頼んでいる方が会員になったり、バナナくらぶ会員の問い合わせがあったり、興味を持ってくださる方は多くなりました。2012 年度よりリニューアルするホームページでは、バナナくらぶのページを今までよりもわかりやすくしたので、バナナくらぶのことをより多くの方に知っていただけたと思います。

現在会員数 100人 (92)

### 年間出荷件数 (月平均)

20kg	10kg	6kg	3kg
41 件 (51)	165 件 (191)	161 件 (160)	265 件 (283)

※ ( )内は前年度集計数

# 緊急支援報告

2010年度は、以下の災害に関する緊急支援を行いました。

## ① ネグロス地震被害(2012年4月まで継続)：¥1,016,000 / 2011年3月末現在

2012年2月6日、ネグロス島東部近海でM6.9の地震が発生し、ネグロス東州で多数の死傷者、家屋や橋げたの損壊、道路の地割れなど、甚大な被害が出ました。特に、同州ギフルガン市プラナス村では、地震によって大規模な地すべりが発生し、バランゴンバナナ生産者の家族2人を含む20人以上が死亡・行方不明という惨事に見舞われました。現地のパートナーであるオルター・トレード社(ATC)が、避難民の住居や校舎が損壊した小学校への建築資材の提供などの支援活動を実施。APLAでは、ATJと共同で募金を呼びかけました。

## ② 福島に関連する動き

2011年は、東日本大震災・福島原発事故を受け、APLAとして何ができるか、すべきかを考えてきました。以下が1年間の動きのまとめです。この活動から見えてきたことをポジションペーパー「福島とともに」としてまとめ『ハリーナ15号』に掲載しました。

### ■ 2011年度東日本大震災を受けての動き

2011年4月5日	“ニッポン農力向上&震災復興大作戦!” 緊急フォーラム参加
2011年4月23日	福島県三春町 “滝桜花見まつり”
2011年6月29日	“スライドトーク・イベントフォトジャーナリスト山本宗補氏が語る 3.11 ～福島第一原発事故の取材報告～” 共催
2011年7月10日	千葉県成田・三里塚ワンパック訪問 (APLA Report no.5 取材)
2011年7月26日	二本松有機農業研究会訪問 (APLA Report no.5 取材)
2011年8月2日	静岡県清水・村上農園訪問 (APLA Report no.5 取材)
2011年8月3日	茨城県東茨城郡・茨城 BM 訪問 (APLA Report no.5 取材)
2011年8月10日	栃木県アジア学院訪問 (APLA Report no.5 取材)
2011年10月19～20日	福島県二本松市・二本松有機農業研究会訪問
2011年10月29日	福島県三春町 “三春収穫祭”
2011年11月1日～	「福島子どもたちに届けよう バナナ募金」開始
2011年12月3日	二本松有機農業研究会訪問
2011年12月17日	「バナナ募金」お届け先の福島県伊達市・仙林寺の寺子屋訪問
2011年12月17日	全国有機農業推進協議会・関東集会参加
2012年1月10日	二本松有機農業研究会訪問、打ち合わせ
2012年1月22～28日	「脱原発への道」ドイツツアー参加
2012年1月28日	エネルギー勉強会連続セミナー 「原発とわたしたち」 第1回共催
2012年2月11日	エネルギー勉強会連続セミナー 「原発とわたしたち」 第2回共催
2012年2月26日	二本松有機農業研究会訪問
2012年3月～	にんじんジュース販売開始
2012年3月8日	「福島農家の“今”に触れる～福島視察・全国集会事前勉強会」共催
2012年3月24日	福島県有機農業ネットワークふくしま集会実行委員会主催「福島視察・全国集会」参加

2011年度から、東日本大震災以後、国際協力関係の様々なNPOやNGOの中で、国内へと活動を広げ、団体どうしが連携する動きも出てきました。現在APLAでは、以下のグループと一緒に活動を進めています。

- 三春花見東京実行委員会：アジア太平洋資料センター(PARC)、日本国際ボランティアセンター(JVC)
- エネルギー勉強会：アジア太平洋資料センター(PARC)、アーユス仏教国際協力ネットワーク、開発教育協議会(DEAR)、日本国際ボランティアセンター(JVC)、メコン・ウォッチ
- 2012年度に具体化するための準備会合として、ATJ、アーユス仏教国際協力ネットワーク、日本イラク医療支援ネットワーク(JIM-NET)とともに、パプア州から届くカカオを利用した福島支援ができないかと検討を重ねてきています。また、定期的に会合を開き、福島での活動状況などの情報共有を進めています。

## < 2011 年度の賛同・協賛 >

- ・沖縄・意見広告運動（第二期）【賛同】
- ・“ニッポン農力向上&震災復興大作戦！” 緊急提言【賛同】
- ・福島原発事故緊急会議【参加・賛同】
- ・脱原発・新しいエネルギー制作を実現する会（eシフト）【参加】
- ・6.11 脱原発 100 万人アクション【賛同】
- ・原子力発電に関する電力総連への申し入れ【賛同】
- ・福島の子どもたちを守るための緊急署名：避難疎開の促進と法定 1mSv の遵守を【署名】
- ・ノーニュークスアジアフォーラム 2011【賛同】
- ・比バイオ燃料「土地収奪と軍事化のストップを！」【署名】
- ・JICA 集団研修「原子力発電基盤整備計画」の中止を求める要請書提出【賛同】
- ・【緊急国際署名】日本政府は原発輸出推進政策を即刻止め世界の脱原発をリードしてください【賛同】
- ・公開シンポジウム『消費者が考える食品表示の一元化』【賛同】
- ・TPP 交渉への参加に強く反対します（申し入れ）【賛同】
- ・TPP 協議に関する情報公開と市民参加の申し入れ【賛同】

## < 会員数報告 > 2012 年 3 月 31 日時点

	個人	団体	合計
正会員	155	37	192
賛助会員	129	15	144
合計	284	52	336

## < 組織体制 >

- 理事：秋山真兄（共同代表）、疋田美津子（共同代表）、村井吉敬（共同代表）、吉澤真満子（事務局長）  
市橋秀夫、上田 誠、大野和興、鹿毛優子、廣瀬康代、堀 芳枝（以上 10 名）
- 監事：近藤康男
- 評議員：有竹正寿、奥 万里子、出口雅子、橋本順子、弘田しずえ、堀田正彦、前島宗甫、幕田恵美子、  
持井啓吾（以上 9 名）
- 名誉顧問：前島宗甫
- 事務局員：吉澤真満子（事務局長）、松田麻衣子（専従）、野川未央（専従）
- 現地担当デスク：大橋成子（フィリピン）、津留歴子（インドネシア）

## < 総会・理事会・評議員会 >

- 総会：第 4 回総会（2011 年 5 月 21 日）
- 理事会：第 9 回（2011 年 4 月 16 日）第 10 回（2011 年 7 月 2 日）第 11 回（2011 年 9 月 17 日）  
第 12 回（2012 年 2 月 4 日）
- 評議員会：第 7 回（2011 年 9 月 17 日）第 8 回（2012 年 2 月 4 日）

特定非営利活動法人

Alternative People's Linkage in Asia

APLA

## 2011 年度事業報告

2011 年度は東日本大震災と原子力発電所事故によって引き起こされた大きな混乱と不安から始まりました。それと同時に、戦後の日本が追い求めてきた「豊かさ」の見直しや、巨大な構造に組み込まれてしまっている暮らしのあり方について重大な問いを突きつけられたのではないのでしょうか。

今年のキャンペーンニュースでは、“人と人がつながれば、世界は変わる”と打ち出しました。こうした混乱の時代にあるからこそ、人とのつながりを改めて意識・構築しなおし、そうした作業の繰り返しにより、自分たちの暮らしや社会は変えていきたい、という思いを込めたものです。

私たちの暮らしや社会のあり方が大きな転換期に来ている現在、これまで構造的暴力と闘ってきたネグロスの農民をはじめ、アジアの仲間たちから様々な経験を共有してもらいつつ、次の世代へつなげることのできる未来を共に創っていきたくと考えます。そうした意味においても、改めて APLA は何をすべきかを考え、自分たちの立ち位置の確認や現状把握に議論を費やし、そして原発被害に苦しむ福島の人びととの関係構築、アジアとの連携の可能性を模索した1年となりました。